



# 本郷台中だより

～明日も行きたい本郷台中学校～

令和8年度第2号  
令和8年5月25日  
文京区立本郷台中学校  
校長 工藤 邦彰

○自ら学び、考え、行動する生徒。 ○互いを思いやり、尊重し合える生徒。 ○豊かな心を持ち、心身ともに健康な生徒。

## 「いのちと人権」について考える

文京区教育委員会は、5月と12月を「いのちと人権を考える月間」と定め、人権教育や生命尊重教育に重点的に取り組むこととしています。あわせて、自尊感情や自己肯定感を高め、自分や他者の命、人権を大切にしたい心や態度を育てる具体的な取組を推進することとしています。

また、人権教育の目標を、

一人一人の幼児・児童・生徒がその発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解し、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになり、それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるとともに、人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながるようにする。

(令和7年度「かがやく心」リーフレット 令和8年3月 文京区教育委員会教育推進部教育指導課 から抜粋)

と定めています。

このことを受け、本校では今年度、人権教育の一環として、学校図書館に『心のバリアフリー』を広げようコーナーを設置しました。

人は誰でも「得意・不得意」があります。私は校長職を務めていますが、そんな私でも、片付けは不得意です。「不得意」は、社会生活上の影響が大きくなると、その呼び方が変わることがあります。それが、「障害」です。

様々な様態がある「障害」ですが、大きく分けて2つの考え方があることを知っていますか？一つを「個人モデル（医学モデル）」、もう一つを「社会モデル」と言います。

障害の「個人モデル（医学モデル）」とは、障害が「その人自身にある」という考え方です。例えば、脚が不自由で車イスを利用している方がいるとします。ある建物に入ろうとしたら、入り口が階段でできていて、車イスでは入れそうにありません。このとき、「建物に入れないのは、その人の脚が不自由なことに原因がある」とするのが、障害の「個人モデル（医学モデル）」の考え方です。この考え方に基づくと、解決策は、「その人が治療をしたり、リハビリをしたりして、車イスが無くても歩いて階段を上れるように努力する」となります。

本当にそうでしょうか？

もし、その入り口に車イスでも上がる事ができる、なだらかなスロープがあれば、何の障壁もなく、建物に入ることができますよね。このように、「建物に入れないのは、誰もが利用できるようなスロープが無いことに原因がある」とするのが、障害の「社会モデル」です。

「社会モデル」の考え方をもち、他の人の大切さを認め、社会にある様々な障壁を無くするための具体的な行動ができるようになるために、まずは「知ること」が大切です。ぜひ、『心のバリアフリー』を広げようコーナーにある本を読み、様々な様態がある「障害」や「社会の障壁」について知識を深めるとともに、自分を含む全ての人の人権を尊重する社会の実現に向けて、今、自分ができることを考えてほしいと願っています。

学校HP「本郷台中日記」をほぼ毎日更新し、日々の様子をお伝えしています。是非ご覧下さい！